

日野町議会第1回臨時会会議録

令和7年2月3日

開会 9時08分

閉会 10時35分

1. 出席議員（14名）

1番	錦戸由佳	8番	山本秀喜
2番	福永晃仁	9番	高橋源三郎
3番	谷口智哉	10番	加藤和幸
4番	松田洋子	11番	後藤勇樹
5番	柚木記久雄	12番	中西佳子
6番	川東昭男	13番	西澤正治
7番	野矢貴之	14番	杉浦和人

2. 欠席、遅刻、途中退席および早退議員

なし

3. 会議録署名議員

1番	錦戸由佳	13番	西澤正治
----	------	-----	------

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（19名）

町長	堀江和博	副町長	安田尚司
教育長	安田寛次	政策監	河野隆浩
総務主監	吉澤利夫	厚生主監	吉澤増穂
産業建設主監	柴田和英	教育次長	正木博之
税務課長	吉澤幸司	企画振興課長	小島勝
交通環境政策課長	大西敏幸	住民課長	杉村光司
福祉保健課地域共生担当課長	芝雅宏	子ども支援課長	森弘一郎
建設計画課長	杉本伸一	上下水道課長	嶋村和典
会計管理者	三浦美奈	学校教育課不登校対応担当課長	赤尾宗一
生涯学習課長	加納治夫		

5. 事務のため出席した者の職氏名（2名）

議会事務局長	園城久志	総務課主査	星田拓臣
--------	------	-------	------

6. 議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名について
- ” 2 会期決定について
- ” 3 議第1号 令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）

会議の概要

－開会 9時08分－

議長（杉浦和人君） 皆さん、おはようございます。全員ご起立をお願いします。

一同礼。

－起立・礼－

議長（杉浦和人君） ご着席下さい。

これより、本日をもって招集されました令和7年日野町議会第1回臨時会を開会いたします。

ただいまの出席議員は全員であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

ここで、町長より招集の挨拶があります。

町長。

町長（堀江和博君） 皆様、おはようございます。令和7年第1回臨時会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

立春となり、暦の上では春を迎えましたが、今週は日本海側を中心に今季最強の寒波が来ると予想されておりまして、大雪などが心配されているところでございます。

さて、本日、臨時会を招集させていただきましたところ、議員全員のご出席を頂き、誠にありがとうございます。

議員の皆様方におかれましては、ご壮健にて議員活動にご精励を頂いておりますことに、深く感謝と敬意を表す次第でございます。

1月を振り返りますと、6日には日野町商工会との共催事業であります新年あいさつの会を開催いたしました。議員の皆様方をはじめ、各方面から多数のご参加を賜りました。今年も町の諸課題に前を向いて取り組み、町にとって大事なものを見極め、次世代につないでいけるよう、思いを新たにいたしましたところではございます。

12日には日野町二十歳のつどいを挙行し、165人が式典に出席をされ、新たな門出を迎えられました。今年も実行委員会によって式典を企画・運営いただき、すばらしい式典にさせていただきました。20歳の節目を迎えられた皆さんのはつらつとした若さあふれる顔を拝見して大変心強く思うとともに、この先、様々な形で日野町と関わりを持ってもらい、希望が持てる町にしていかなければと、改めて感じたところではございます。

また、同日午後からは滋賀県消防協会日野支部の消防出初式が日野公民館で行われました。消防団員の皆様の日頃からのご活動に対して感謝の気持ちを強くしたところではございます。

18日には、来訪者や移動手段を持たない方の利便性の向上を目指し、滋賀県で初

となる公共ライドシェア実証運行の出発式を、岸本副知事をはじめ多くのご来賓に出席を頂き執り行ったところです。

日野町ではこれまで、土日祝日のタクシーの配車がないため、公共交通を利用して観光目的で来訪される方や、移動手段を持たない方の移動ニーズに対応できておりませんでした。この運行により、地域の交通課題の解決につながることを期待しております。

さて、現在、来年度予算編成の最終段階の協議をしております。

令和7年度は、第6次日野町総合計画の5年目となります。総合計画に位置づけられた事業を着実に実施し、持続可能な町政運営を実現させるため、新年度予算編成に取り組んでいるところでございます。

さて、本日の臨時議会に提案させていただきます案件は、一般会計補正予算1件でございます。

議案につきまして、充分ご審議を頂き、適切なるご採決を賜われますようお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

議長（杉浦和人君） 本日の議事日程は、お手元へ印刷配付のとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本会期の会議録署名議員は、会議規則第118条の規定により、1番、錦戸由佳君、13番、西澤正治君を指名いたします。

日程第2 会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期は本日1日といたしたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

— 異 議 な し —

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認めます。よって、本臨時会の会期は本日1日と決定いたしました。

日程第3 議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）についてを議題とし、町長の提案理由の説明を求めます。

町長。

町長（堀江和博君） それでは、提案理由の説明をさせていただきます。

日程第3 議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）。

本案につきましては、第1条のとおり、日野町一般会計予算総額に歳入歳出それぞれ1億2,917万3,000円を追加し、予算の総額を108億4,465万8,000円とするものでございます。

今回の補正予算は、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受ける低所得世帯や事業者の経済的負担を軽減するための支援として、所要の予算措置を講じております。

それでは、詳細をご説明いたします。お手元の議案、議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）に添付をしております歳入歳出補正予算事項別明細書をご覧ください。説明にあたりましては、右側のページで申し上げます。

まず、9ページからの歳入についてご説明をいたします。

第15款・国庫支出金につきましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を増額補正しております。

次に、第19款・繰入金につきましては、財政調整基金繰入金を増額補正しております。

続きまして、11ページからの歳出について説明をいたします。

まず、第3款・民生費につきましては、会計年度任用職員人件費（社会福祉総務費）および物価高支援給付金事業（令和6年度非課税世帯）におきまして、エネルギー・食料品価格等の物価高騰による影響を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯を支援するため、令和6年度における住民税非課税世帯に対し、1世帯当たり3万円を給付するとともに、当該対象世帯のうち18歳以下の子を扶養する世帯に対し、子1人当たり2万円を給付するための経費を新規計上しております。

また、医療・介護・保育施設等物価高騰対策支援事業におきまして、エネルギー・食料品価格等の物価高騰による影響を踏まえ、社会福祉施設等の経済的負担の軽減ならびに経営の安定化を図るため、必要となる補助金を新規計上しております。

次に、第7款・商工費につきましては、地域経済緊急支援事業におきまして、エネルギー等の物価高騰による影響を踏まえ、町内の中小零細をはじめとする事業者に対し、事業継続の支援ならびに経営の安定化を図るため、支援金の給付に必要な経費を新規計上しております。

次に、第10款・教育費につきましては、学校給食事業におきまして、高騰する食材価格の増額分について、保護者の負担を増やすことなく円滑に学校給食事業を実施するため、賄い材料費を増額補正しております。

12ページからは、給与費明細書などの附属書類でございます。

それでは、予算書の説明に戻らせていただきます。

第2条の繰越明許費につきましては、4ページの第2表 繰越明許費のとおり、会計年度任用職員人件費（社会福祉総務費）をはじめ、4件について翌年度へ繰越しを行い、予算を執行するものでございます。

以上、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）の提案説明といたします。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

議長（杉浦和人君） 以上で提案理由の説明を終わります。

ここで暫時休憩いたします。なお、休憩中に議員全員協議会を開催いたしますので、議員の皆さんには401・402会議室へご参集をお願いいたします。

それでは、暫時休憩いたします。

－休憩 9時16分－

－再開 9時50分－

議長（杉浦和人君） それでは再開いたします。休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより質疑に入ります。

質疑はございませんか。

2番、福永晃仁君。

2番（福永晃仁君） 私のほうからは、議第1号の令和6年度日野町一般会計補正予算の第9号から大きく2つご質問をさせていただきます。

先ほど全員協議会の中で、いろいろな数字のほうをお答えいただきました。そのことを基にお聞きをしたいと思います。

事項別明細書10ページ、11ページになりますけども、ここにほぼ全ての内容が入っているんですが、まず1つ、補正予算の概要についてのところにも書いてあるんですが、物価高支援給付金事業、非課税世帯の方々にということで、課長のほうから、非課税世帯が、把握をしている今現状では1,825世帯ということ、大体1,900世帯ぐらいを想定して予算要求をしているというふうなところでお話を頂きました。子どもさんがちょっと読みにくいんですが400名ぐらいというふうなところで500名を想定しているというところでお聞きをしたんですけども、少し大きい話になるんですが、これ、現在、所得というか給与収入自体は恐らく、世の中で賃金が上がっていますので増えていると思っています。ただ、その分、物価高が続いて、可処分所得というか、追いついていないので国からのこういった事業が行われていると思うんですけども、今後、把握をされている範囲で、次年度等、国からのこういった補助金等が、国庫支出金等が、必ず下りてくるというふうな保障はなかなかないと思うんです。今、住民感情といいますか、そういったところでは、結構給付があるまちが、結構よいというか、大きな市町も含めて、なかなか、当町、そんなに財政が大きくはないので、こういった国庫支出金を活用しながらというところで、先ほどの議論でも一般財源のほうから繰越して一般財源を投入する理由はこういったところかというふうなご質問をされた方もいると思うんですけども、今後、今年度は1,825世帯、1,900世帯というところですけども、社会全体を見渡したときには、この数というのは、当町は増えてくるのか、それか、今後子どもの数は当然、もう、今、減っていますので、給付対象が減ってくるのかというところの大体の予想等があればお聞かせをまず頂きたいと思います。

それから、大きく2つ目、地域経済緊急支援事業のところでも、先ほどの全員協議会でちょっとご質問がございました。主監のほうから申請型というふうなお話がありました。要件に見合うところに要綱等を周知されて申請をするというふうな

方法なんですけども、私も地元企業で仕事をさせていただいているというところもあるんですが、この申請型という部分は結構、情報を知らなかったりとか、情報を取られている方は、全ての情報をかなり取られて活用されている方というのは一定数おられるかなと思うんですが、なかなかそうじゃない方がそういったところの支援を本当に必要とされているんじゃないのかなというふうに、情報量的にもやはり各企業とか各店舗によってかなり差が出ているかなというふうに、私、実感として思うんですが、全体給付というのは非常に難しいとは思いますが、申請型というふうなところに対して、今回どれぐらいの申請が来るかというふうな予想はされているのかということと、過去に同じような事業が国庫支出金から下りてきたときにはされていると思うんですが、申請のパーセンテージと申しますか、どれぐらいの申請が出て予算が執行されているのか、把握されている部分があれば、その大きく2つ、お聞かせいただきたいと思えます。

議長（杉浦和人君） 2番、福永晃仁君の質問に対する当局の答弁を求めます。

地域共生担当課長。

地域共生担当課長（芝 雅宏君） おはようございます。

ただいま福永議員から、次年度以降の給付対象の予測、増減の予測ということをご質問いただきました。

令和3年度から何回かこういう給付事業がありまして、そこを確認させていただいていますと、大体今の1,800世帯、ほぼ1,800世帯が変わらずというところなんです。これから給与や所得とかが増えていく可能性もありますし、税控除とかが変わってくるというお話も聞いているので、なかなか予測はつかないんですけども、おおむね今までの予測を見ているとそんなに変わらないかなと思いますので、1,800世帯ぐらいがもう少しは継続するのかなというふうに予測しております。

議長（杉浦和人君） 産業建設主監。

産業建設主監（柴田和英君） ただいま福永議員のほうから、地域経済緊急支援事業につきまして、要件に見合うというか、申請方式での方法につきましてご質問いただきました。

ご指摘のとおり、情報を知らない方への周知をどうするのか、そこに一番支援が必要な方がおられるのではないかとこのところにつきましては本当にそのとおりでございまして、今回、委託料として予算を計上させていただいてまして、日野町商工会に委託をさせていただきます。全体としましては商工業者が700件ぐらい町内でおられるというふうに見込んでございまして、このうち、法人が330件、個人が約370件で最大見込んでおります。そのうち560件、約8割が商工会の会員さんでございまして、そこはくまなく行き渡るといいうふうに考えております。

それ以外の方につきましては、商工会とも連携をしながら、さらなる、こういう

ふうな方がおられるということで、手を差し伸べるような形で支援の充実を図ってまいりたい。それが、ひいては商工会の全体の会員拡大とか力の拡大にもつながっていくというふうにも考えております。

あと、過去での申請の予想でございますが、560件の方は申請が届いて、今のところ8割程度以上は申請を頂けるのではないかとこのように思います。会員さん以外の方については、できるだけたくさんの方に行き届くような方法を、工夫をしながら進めてまいりたいというふうに考えます。

よろしく申し上げます。

議長（杉浦和人君） 福永晃仁君。

2番（福永晃仁君） ご答弁いただきました。

1つ目の物価高支援給付金事業について、課長のほうからおおむね令和3年等を見ていると同じように推移をされているということなんですけども、中身まではなかなか、各個人さんの税上の話になってきますけども、生活実態とか、要は生活されている現状みたいなものというのは、ちょっと中身が変わってきているのかなというふうに思います。今後も、ターゲットとしては、対象としては同じ対象になるんですけども、どういった形で生活をされているのか、その方がどこに困っているからどこにお金を充てていかなければならないのかということでも多分国からも下りてきているので、今回物価高というところもあるので、当然そこに焦点を当てているんですけども、やはり毎年ここは精査をしていく必要があるかなと。昨年、一昨年とこういった国からの事業があるんですけども、当然、町の中でどういった活用をするかというのは工夫できる場所というのはあると思いますし、ちょうどこの非課税世帯というところの表記で非常に困っておられる方というのがあるんですけども、その少し上といいますか、結構、際どいところが多々あるのかなというふうに思います。私たちも含めてということになるとあれなんですけども、そういったところへも、必要な部分は、めり張りをつけてやっぱり支援をしていくというふうなところが大事だと思うので、今後そういったところをまた一緒に検討していければと思います。

2つ目の、先ほどの地域経済緊急支援事業のところも主監のほうから答弁いただきました。

今現状、大体商工会に登録をされている方は8割程度ということで、8割程度を大体申請で頂けるのであれば結構な割合かなというふうに思っています。これが、本当に申請の方法が適切なかどうかということも、8割ぐらい来ているのであれば結構また違う方法も考えられるのかなというふうに、登録をされているところの条件が合えば給付という形も1つできるのかなというふうに思っていますので、あとの2割のところは、やっぱりなかなか、そういったところのアンテナというのが

非常に難しいようなところ、そこを支援していくというふうなところもあると思いますので、思っていたよりも結構活用されているんだなというふうに思っていますので、こういったところを、今後その2割のところをどういうふうに充てていくのかというところ、それから、事業主の数自体はもしかしたら減ってくる方向性にあるのかもしれないんですけども、やはりくまなくそういったところに補助が行くような形でまた考えていただければなと思います。

質問は以上です。

議長（杉浦和人君） ほかにございませんか。

4番、松田洋子君。

4番（松田洋子君） 4番、松田です。

私は、議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）の、特に医療・介護・保育施設等物価高騰対策支援事業費についてお聞きします。

これは物価高なので、エネルギーとか灯油とか、そういうのに充てられていると思うんですけども、特に、新聞なんかを読んでいると、介護保険の訪問介護の単価が下がって、訪問介護をしている事業所がたくさんやめていく、倒産になっているという情報を新聞等で見るんですけども、特に、やっぱり都会はうまくできているんですけども、日野町みたいに、行くところが、すごく距離が、時間がかかったりとか、散らばっているという言い方はおかしいですけど、そういう田舎のところは次々となくなっているという情報を新聞で読んだりしたんですけども、日野町には訪問介護をしてはるところが2事業所あると思うんですけども、そこら辺が、報酬単価というかが下げられて、どういうふうになったのかを、ご存じの範囲でよろしいのでお聞きしたいのと、もう1つ、やっぱりそこに対するの補助というのはなかなか難しいのか、ちょっとお聞かせ下さい。

議長（杉浦和人君） 4番、松田洋子君の質問に対する当局の答弁を求めます。

厚生主監。

厚生主監（吉澤増穂君） ただいま、補正予算（第9号）につきまして、松田議員より質疑のほうを頂きました。

医療・介護・保育施設等物価高騰対策支援事業につきましては、今回、国の補正予算による重点支援交付金を活用いたしまして、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた事業所の支援を目的として制度設計をさせていただいたところでございます。

近年、何回か補正予算によりこういった対応をさせていただいておるところでございますが、福祉事業所につきましては令和4年度にも、同様の交付金を活用いたしまして支援をさせていただいたところでございます。

同じようなスキームによりまして、できるだけシンプルに、できるだけ早く支援

が確実に事業所に届くようにということで今回予算計上させていただきまして、提案をさせていただいているところがございますので、よろしくお願いたします。

関連いたしまして、介護事業所についての状況と今後の対応についてということでご質問を頂戴したところがございます。

今ご質問いただきました訪問介護の事業所につきましても、今回の補正予算の中では、一般的な介護保険福祉事業所の1つとしまして、一定の支援金を今回補助させていただくところがございますけれども、ご質問の中では令和6年4月の介護報酬改定についてというところを中心にご質問いただいております。

今回の介護報酬改定におきましては、全体の平均といたしましては1.59パーセントの報酬改定のアップというところございましたが、訪問介護の基本報酬につきましては2パーセントの引下げとなったというところがございます。

これは、要因につきましては、国の調査において、都市部の移動が少なく効率のよい事業所を中心とした経営状況によって、その結果の傾向が反映されたと分析がされているところございまして、収益率のよい事業所がそういった影響を及ぼしたというふうに考えております。

ただ、日野町を含む中山間部の移動距離の長い事業所については、効率が悪いといえますか、収益率が悪いということで、職員の高齢化や人材不足などもありまして、大幅な減収になっているところもあるというふうに聞いてございます。全国的には閉鎖や廃業を余儀なくされているところもあるというふうなことを聞いているところがございます。

このことは、町内の社会福祉施設等の連絡協議会や、今おっしゃっていただいた2つの事業所さんからも、死活問題ではあるというふうな声を頂いているところがございます。

中山間地域の当町におきましても、数少ない訪問介護の事業所がなくなってしまうと、介護サービスを受けたくても受けられない方が出ることが想定されますので、町といたしましても事業継続のための支援策が必要ではないかというふうに考えております。

こういった報酬改定によります公定価格に対応する部分について、それを支援するということは、全国的な状況を聞かせていただいてもそういう市町が少ないというふうなことでございますので、県内だけでなく県外の状況などにつきましても、この対策をされている市や町を調査いたしまして、新年度予算に向けて研究ができればなというふうに考えております。

議長（杉浦和人君） 松田洋子君。

4番（松田洋子君） 本当に事業所がなくなったらたちまち困る方もたくさんおりますので、日野町でも独自に考えてほしいと思います。

これで質問を終わります。

議長（杉浦和人君） ほかに質疑はございませんか。

5番、柚木記久雄君。

5番（柚木記久雄君） 5番、柚木です。

補正予算につきまして質問させてもらいたいと思います。

今回の補正予算は、国の補正予算にあります物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、低所得世帯支援枠と推奨事業メニューの生活支援および事業者支援の項目から町の執行部が支援内容を選ばれたと考えますが、推奨事業メニューの国の例示では、生活者支援のほうでは住民税非課税世帯以外の低所得世帯支援として、電力、ガス、また、灯油をはじめとするエネルギーや、食料品価格の価格高騰を軽減するための支援というものが挙げられております。例示されております。また、ほかの項目としましては、プレミアム商品券の取組や、L Pガス・灯油使用世帯への支援も例示されております。

これらは、今のところは生活支援の枠ですが、また、事業者支援の枠としましては、自治会等への街路灯のエネルギー価格高騰への支援についても例示されております。

これの取組を町としてはしないのかといいますか、そこら辺の支援についてのどう考えているのかを教えてくださいたいと思います。

議長（杉浦和人君） 5番、柚木記久雄君の質問に対する当局の答弁を求めます。

総務主監。

総務主監（吉澤利夫君） ただいま柚木議員から、国の交付金を活用して、メニューがたくさんあるのに、そういったほかのメニューはどうなんだと、こういうふうなご質問かなと思います。

まず、国のほうから交付金のほうが、額が示されておまして、国のほうでは全体で推奨メニューにつきましては0.6兆円ということですので、大体1万分の1が町に来るかなということですので、大体6,000万ぐらい、もう少し少なく見積もって5,500万ぐらいの財源が見込めるかなと、その財源の中でどのような形が一番よいのかなということを庁内でいろいろ議論させていただきました。当然ながら、いろんなメニューがございますので、いろんな取組ができるのかなと思います。先ほどおっしゃられたように、いわゆる非課税世帯以外の低所得世帯の支援でありますとか、自治会なんかへの補助、それ以外にもたくさんの事業者支援ということで国からも例示がされております。

ただ、町のほうでもいろんな事業の中を精査させていただいた中で、財源が潤沢にあるわけではなく限られた予算も来ておりますので、その中で何が一番優先されるべきかということをも十分議論させていただくと、町の執行体制を踏まえまして

このような形で今回補正をさせていただいたということですので、まずはこちらのほうを鋭意努力して取り組んでまいりたいと、このように思い予算化をさせていただいたところでございます。

議長（杉浦和人君） 柚木記久雄君。

5番（柚木記久雄君） 町の方針としてこの事業に取り組んだということで了解させてもらいます。ありがとうございます。

議長（杉浦和人君） ほかにございませんか。

8番、山本秀喜君。

8番（山本秀喜君） 私のほうから、同じく議第1号の令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）について、2点質疑をさせていただきます。先ほどから、福永議員、柚木議員からも質問がありますが、ちょっと違った視点で質問をしていきたいと思っています。

2月補正予算案の概要を見ていただくと、今回の歳出の主な内容で物価高支援給付金事業で7,093万2,000円と。その中身で、住民税非課税世帯に1世帯当たり3万円と、同じ対象世帯の18歳以下のお子さんを扶養する世帯に子ども追加でお一人さん2万円支給していくというものなんです。

これは、先ほど柚木議員からも言われました、重点支援地方交付金の追加と、この国の施策があつて、予算額1.1兆円、先ほど総務主監からも、そのうちの事業推奨メニューが0.6兆円あると。だから、今の低所得世帯支援枠が0.5兆円と。それを使って日野町にも割り当ててくるというものですから、国の施策ですから、今の低所得世帯支援枠についてはもう既に決められていて、とやかく言っても仕方ないとは思っていますけども、住民税非課税世帯、いわゆる低所得世帯に支給されるもので、この給付金が救いの一手になるとは思いますが、働いても生活が苦しいという世帯には届かないという現状もあるのではないかなと思っています。

先ほどちょっとお聞きしましたら、日野では今1,825世帯で、1月1日現在の日野の世帯数が8,840世帯、計算しますと5分の1、約20パーセントがこの支援対象やということなので、非常に多いなという印象を持ちました。これが令和3年から変わらへんということなので、コロナから見てみて、ちょっと失礼なんですけども、そこからぽこっと増えてきたのかとか、いろいろ思うところはあるんですが、どのような世代の該当者の方が多いんでしょうか。そんなことをつかんでおられるなら、例えば、もう既に年金をもらわれていて、そういう方も非常に低所得世帯に該当するのではないかなと思うんです。その辺、分かっているなら教えてほしいなと思います。

もう1つは、地域経済緊急支援事業の3,000万円についてです。これもお二人さんから話が出ていますけども、今回、町内の中小零細事業者の方を対象にしていく

と決められていることを聞いています。今までは、コロナ禍によって、結構、商店さん、がんばろう商品券を使って、住民さんにもちよつと恩恵があつて商店さんも潤うという事業が結構多かつたなと思つているんですが、今回事業者へ支援していくということを決められた経緯を教えてくださいたいと思います。

この2点、よろしくお願ひします。

議長（杉浦和人君） 8番、山本秀喜君の質問に対する当局の答弁を求めます。

地域共生担当課長。

地域共生担当課長（芝 雅宏君） ただいま山本議員より、対象となる世帯が約20パーセントと多い、どれぐらいの年齢層かというようなご質問を頂きました。

確かに令和3年度からほとんど変わらないんですけども、対象世帯が、やはり高齢者世帯が主なので、年金受給者で、正確には分からない、毎回ちよつとずつ違つたりするので。

前回の均等割を含む世帯で見たところ、60歳代以上が約半分。ただ、均等割がかかっているところが若い世代には多いのかなと思ひまして、20代が、その中でも80世帯ぐらいあるんですね。70歳代、60歳代の合計が200世帯ぐらいで、あと、その間は大体30から40世帯で、20代というところがまた極端に多くて80世帯ぐらいありますので、恐らくこの80世帯は均等割のみというところが多いのかなと思ひます。

今回は非課税世帯だけなので、もうちよつと高齢者世帯の割合が多くなってくるのかなという感じを受けております。

なので、数字が変わらないというのも、恐らく高齢者世帯が多いので変わらないのかなという感じの印象を受けています。

議長（杉浦和人君） 産業建設主監。

産業建設主監（柴田和英君） ただいま山本議員のほうから、地域経済緊急支援事業の事業者支援を決められた経緯についてご質問を頂きました。

これは、もう先ほど来の説明のとおり、国から地域の実情に合わせて必要な支援を実施できるように、今回、地方創生の臨時交付金が追加をされたところでございます。

今までから、くらし応援・がんばろうクーポン券という形で支援をさせていただいてきたわけですが、今回、新たに初めて商工業者に焦点を当てながら支援をさせていただくということを決めさせていただいたところでございます。

その経緯といたしましては、やはりエネルギーの価格高騰の影響を受けながらも、町内の中小企業や小規模事業者は、地域の暮らしと経済を守つて営業をしていただいております。町が、そういった形で頑張つていただいている地元商工業者にしっかりと目を向けて、日野町の中小企業・小規模企業振興条例に基づいて、中小企業、小規模企業の活性化を推進し、事業の継続を支援することを目的として、今回、日

野町エネルギー価格高騰事業者支援金の給付を提案させていただいたところでございます。よろしくお願いいたします。

議長（杉浦和人君） 山本秀喜君。

8番（山本秀喜君） それでは、再質問を1点だけさせていただきたいと思います。

先ほど、今の住民税非課税世帯の件なんですけど、そういうふうにお聞きしまして、令和2年度まで、要はこの過去は、もっと少なかったのか。要は、3年度以降は1,800世帯ぐらいで変わらないということなのでちょっと傾向を聞かせていただきたいのと、日野町は近隣市町と比べて多いものなのか、それは、平均して大体、世帯数の20パーセントぐらいも、各市町も同じぐらいだぞということなのか、そういう状況をつかんでおられるならその点も教えていただきたいと思います。

議長（杉浦和人君） 地域共生担当課長。

地域共生担当課長（芝 雅宏君） 山本議員より再質問いただきました。

令和2年度の状況ということなんですけども、こちらで積み上げているのが非課税世帯とか均等割世帯とかへの給付でして、令和2年度は1人ということだったので全く違う対象になりまして、比較しようがないのが正直、一番、コロナが始まったときなので、多かったかもしれないんですけども、ちょっと分からない状態です。

あと、近隣市町と比較するとどういいう世帯が多い、高齢者世帯が多いまちとかいろいろあると思うんですけども、ほとんどそんなに差はない感じを、印象を受けています。

議長（杉浦和人君） 山本秀喜君。

8番（山本秀喜君） 状況を確認させていただきました。

支援金ですので、ちょうど3月末から4月、特にお子さんをお持ちのご家庭ですと、進学やとか進級にお金が必要、入り用が多くなる時期でもございますので、素早く、できる限り3月、年度内を目指して支給を考えていただきますようによろしくお願ひしたいと思います。

議長（杉浦和人君） ほかにございませぬか。

11番、後藤勇樹君。

11番（後藤勇樹君） それでは、私からは、一般会計補正予算（第9号）から2項目お尋ねしたいと思います。

まず1つ目、物価高支援給付金事業についてですけれども、これはもう、内容については他の議員さんの質疑によりまして大体把握できましたので、私はちょっと違う角度からこれについてお尋ねしたいと思います。

町内、マイナンバーカードの取得率が大体7割近くになってきたんじゃないかなと、保有率もそれに近くになってきたんじゃないかなと思いますけれども、マイナンバーカードを申請しますときに、補助金、給付金なんかを頂く場合の振込先もひもづけ

させていただいて登録したと思います。今回のこの給付金事業につきましては、マイナンバーカードのそういった振込のひもづけ、こういったものは活用されないのでしょうか。この辺をお尋ねしたいと思います。

もう1点は地域経済緊急支援事業についてですけれども、今回の支援事業は、町内の中小零細をはじめとする事業者に対して、個人さんが3万円、法人さんが5万円ということで、合計で3,000万円用意していただいているということですが、これ、農業事業者、あるいは、事業者登録していらっしゃるかどうか分かりませんが農家さん、確定申告をちゃんとしていらっしゃる、これは含まれているのでしょうか。この辺、お尋ねしたいと思います。

以上、お願いします。

議長（杉浦和人君） 11番、後藤勇樹君の質問に対する当局の答弁を求めます。

地域共生担当課長。

地域共生担当課長（芝 雅宏君） ただいま後藤議員より、マイナンバーカードの公金口座のひもづけ、利用するかどうかということでした。

利用するんですけども、まず、もう今までに同じような感じで給付させてもらっている方については、この口座でよろしいですか、この額で間違いはないですかというような用紙を送付させてもらいましてプッシュでいかせてもらうので、公金口座を使うというよりは、前回の口座を使う方がほとんどです。

日野町で税情報や口座情報がつかめない方については申請をしてもらう形になりますので、その場合は公金口座を活用することもあるんですけども、ほとんどの方が、今までの実績からいくと、公金口座って書かれていても違う口座が書いてあったりするときがあるので、いずれにしても確認はさせていただくことになります。

議長（杉浦和人君） 産業建設主監。

産業建設主監（柴田和英君） ただいま後藤議員のほうから、今回の地域経済緊急支援事業の、農業事業者、農家のほうについて対象になるかどうかということでご質問いただきました。

今回の支給で、個人の中で、所得要件とか住所要件はございますけれども、事業収入額の総収入の半数以上ある農業の方で、なおかつ、個人事業主で農業の開業の届出のある方、いわゆる青色申告等をされている方については、今回対象とさせていただきますというふうに考えております。

以上、お願いします。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

11番（後藤勇樹君） 物価高支援給付金事業につきましては了承いたしました。ありがとうございます。

もう1点、農家さんへの給付の件なんですけれども、事業者登録していらっしゃる

って青色申告していらっしゃるところは対象ということですがけれども、小さい小さい農家さんであっても、やっぱりそれなりに燃料も使っていらっしゃいますし、特にこの季節になりますとハウスなど暖房費もかかっておりますし、さらに、田起こしでこれから田植に向かっていく時期の中で、肥料そのものも非常に上がっているということで、かつては、ウクライナの問題なんかが発生しましたときに、ああった地政学的な問題を起因といたしまして物価高騰が起こっているということで、肥料、燃油、そういったものに対する補助を行いましたけれども、今回は、そういった部分は、これ、別枠で農業用ようになっておりませんが、前回ありましたのになぜ今回はないのかちょっとお尋ねしたいと思います。

議長（杉浦和人君） 産業建設主監。

産業建設主監（柴田和英君） 今回、小規模農業者の方への支援について対象にならないかということですが、引き続き農業者の方の状況というのは非常に厳しい状況にあるというふうに認識をしております。以前から、令和4年、5年にかけて、燃油高騰対策であったりとか肥料の高騰対策、また、農業組合への対策ということでさせていただいております。今回は、低所得世帯とか、また、事業所を中心に光を当ててということですが、すぐに、今、先ほどの農業法人とか個人事業主の方以外は、今回は対象にならないということですが、引き続き状況を注視させていただきまして、今後、国の交付金の財政支援が得られるようであれば、また農業者支援についても考えてまいりたいというふうに考えております。よろしくお祈りいたします。

議長（杉浦和人君） 後藤勇樹君。

11番（後藤勇樹君） 令和6年度、お米が、若干価格が上がったということで、少しは今までよりも真っ当な価格にお米が近づいてきたんじゃないかなという感じはございますけれども、政府のほうも備蓄米を放出しようかというような話もしております。こういったお米の価格がいつまで続くのかも分からない状況です。こういった中で、燃料代だけでなく肥料の値上がりの仕方というのはもう半端じゃないような値上がりの仕方をしております。この辺は十分主監もご理解いただいていると思いますけれども、やはり農業は、国にとってもそうですけど日野町にとっては特に基幹産業でございますので、ぜひそこら辺をしっかりと対応していただきたいと思っておりますのでよろしくお祈りいたします。

議長（杉浦和人君） ほかにございませんか。

— な し —

議長（杉浦和人君） ないようでありますので、質疑を打ち切りしたいと思います。ご異議ございませんか。

— 異 議 な し —

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認め、質疑を終わります。

お諮りいたします。日程第3 議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）については、委員会付託を省略し、討論を行い、採決いたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

－異 議 な し－

議長（杉浦和人君） ご異議なしと認め、これより討論に入ります。

討論はございませんか。

－な し－

議長（杉浦和人君） ないようでありますので、討論を終わります。

これより採決いたします。

議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

－起 立 全 員－

議長（杉浦和人君） ご着席下さい。

起立全員であります。よって、議第1号、令和6年度日野町一般会計補正予算（第9号）については、原案のとおり可決することに決しました。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

ここで、町長より発言を求められておりますので、これを許可いたします。

町長。

町長（堀江和博君） 閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

議員の皆様方には、本日の臨時議会に提案をいたしました議案につきまして、慎重なるご審議を賜り、提案どおり可決を頂きましたことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、今年で18回目となる日野ひなまつり紀行が、2月9日から3月9日にかけて、大窪から村井、西大路の町並みにおいて、実行委員会の皆様により開催を頂きます。

期間中は、各家に伝わる、江戸時代から現在に至るまでのおひな様や創作人形をはじめとするひな飾りが町並み一帯に飾られます。また、様々なイベントも予定されており、町内外からたくさんの方が訪れ、栈敷窓が並ぶ町なかをのんびりゆったりと散策いただき、春の訪れを感じ取っていただけることと大変期待をしております。

しばらく厳しい寒さが続くものと思われませんが、議員各位におかれましては、健康には十分ご留意を頂きまして、各方面でご活躍を頂きますことを心からご期待申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

議長（杉浦和人君） 以上をもちまして本日の会議を閉じ、令和7年日野町議会第1回臨時会を閉会いたします。

一同起立、礼。

— 起 立 ・ 礼 —

議長（杉浦和人君） ご苦労さまでした。

— 閉会 10時35分 —

地方自治法第123条の規定により署名する。

日野町議会議長 杉浦 和人

署名議員 錦戸 由佳

署名議員 西澤 正治